

* 身の丈にあった収納

「あれはどこへやった?」「どこにしまったかしら!」と今日も探し物が始まる。リビングには作り付け収納がたっぷりあり、一見すっきりと片付いている



リビングの一面に設けた収納。多忙な若いご一家で、外からわかるよう扉をあえて半透明にしている

Let's リフォーム

西田恭子

はずだ。ただ、「あれ」がどこにあるかがわからないだけだ。

収納の方法には、「分散収納」と「集中収納」がある。集中収納は、ウォークインクローゼットや納戸のように収納専用にとまとめたスペースをとること。分散収納は使う部屋(場所)に使うものを置く。

たとえばキッチンのコンロの横に、扉のない棚を作って調味料を並べたり、タオルや下着を洗面脱衣室に収納したりすることだ。家族が集まり、物が集中するリビングには、雑多なアイテムをすっきりと収納でき



るよう、扉付き、引き出し付きの収納棚をたくさん設けることが多い。

ところが、夫婦二人の暮らしになると、これがネットワークとなる。物の出し入れの頻度が減り、どの棚どの引き出しに、何をしまったのか分からなくなってしまう

熟年のご夫妻。旬の食材を乾物や漬物にして保存なさるといふことで設けたキッチンの食品倉庫。集中収納は、雑多なアイテムを一覧できるのが便利

のだ。それならば、ウォークインクローゼットのような集中収納の方が便利だ。LDKの近くに納戸のようなスペースを設ける。

ポイントとはとにかく一目で全部の物が見渡せるようにすること。広さを収納棚+自分の立ち位置に限定し、重ね置きしてしまうような余計なスペースを作らない。棚の奥行きも同様に

あまり深くしない。30代であればたいいのものは入ってしまうし、自分が入れる空間があれば少しくらいはみ出しても物は収まる。

入ってぐると見渡せば目当てのものがすぐ見つかるだろう。少なくとも、「君が整理整頓すればするほど、物がなくなるな」と夫に皮肉を言われる頻度は確実に減るはずだ。

生活が縮小していくとき、本当に分散収納が必要なのは玄関の靴くらいではないかとさえ思えてくる。探し物の時間が増えたなど感じたら、自分の身の丈にあった収納スタイル、さらには、物の量を考え直す時期なのかもしれない。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士)

変化する生活様式に合わせて...